

頼りグセ



放っておくと悲劇に 3つの思い込みをなくそう

頼りグセの原因は、主体性を持って仕事に取り組めないことにある。主体性を欠いた仕事で成果を上げても喜べないし、やる気がわいてこない。人に頼るグセを直すには、3つの思い込みをなくす努力が大切だ。

「たよりぐせ」何でも人に頼ってしまつグセ。未経験の仕事に対して常に逃げ腰。自分で決めべきことを決められず、先輩や上司にいちいち聞きに行く。結果としてスキルが身につかない。

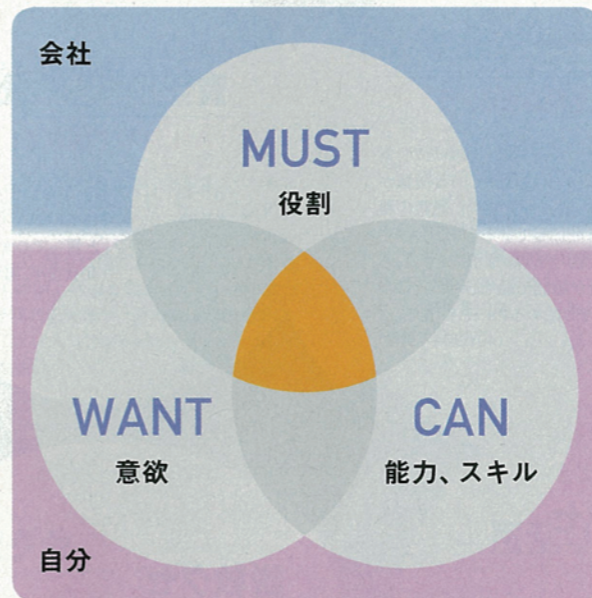
面倒見のいい先輩がいるのをいいことに、仕事でついつい頼ってしまう。自分で下すべき判断も、頼れる上司にいちいち聞きに行く。仕事で人に頼るのは必ずしも悪いことではない。しかし、それが常態化し、何でもかんでも頼ってしまう「頼りグセ」の人が中にはいる。

「人に頼ってばかりいると、何も学べないまま年を重ねることになります。会社の中で年次が上なのに、何もできない人」のままでいる。もう悲劇です」とフェイスホ

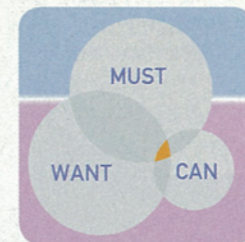
ールディングス代表の小倉広さん
は言う。おまけに「自分が主体的にやっていないから、成功しても心の底から喜べないし、失敗したら人のせいにする」。

主体性を強め、頼りグセを断ち切るには「3つの思い込み」を正すことが大切だ。下の図を見てほしい。ビジネスパーソンは「MUST」「CAN」「WANT」の3つが重なって初めて「頼らず」仕事ができる。頼りグセの人は、この3つのいずれかについて、重要な勘違いをしている。

MUST、WANT、CAN 3つが正しく重なって初めて 「頼らず」に仕事ができる



頼りグセの状態



ビジネスパーソンは図の黄色の部分を意欲を持って主体的に行う。会社における自分の役割である「MUST」、自分の能力やスキル「CAN」、仕事に対する自分の意欲「WANT」。3つのどれかが縮んだり、ずれていると、黄色い部分が狭くなり、主体的な仕事ができなくなる。図は「課長のスキル」(小倉広著/徳間書店)をもとに編集部で作成。

教えてくれた人



小倉 広さん
Hiroshi Ogura

フェイスホールディングス代表

1988年大学卒業後、リクルート入社。企画室、編集部、組織人事コンサルティング室を経て2003年より現職。「任せる技術」(日本経済新聞出版社)、「リーダーのための7つのステップ」(JMAM)、「33歳からのルール」(明日香出版社)などの著書がある。

MUSTとはやるべきこと、つまり役割なのだが、「自分の仕事はここまで」と勝手に線引きしている人がいる。実は、頼りグセの原因の多くがこれだ。例えば、部署内で企画会議をする場合、「自分の役割は選択肢をいくつか考えて提出すること。どれにするか決めるのは上司」と考えている。

決めるのは自分

しかし「そこが大きな間違いです。決めるのは上司じゃなくて自分です。企画案を10個提案したら、「中で選ぶならこれしかありません」と上司を口説く。上司は「喧嘩してでも意見をぶつけてほしい」と部下に期待していますから。決めるのは自分。上司はハンコを押す係です」。このように考えて初めて、人に頼らず主体的に仕事ができる。自分で動き、決めれば、仕事が目白になるし、失敗しても次の糧となる。

CAN(能力、スキル)の思い込みは、本当は能力があるのに「自分には能力がない」と思っているケースだ。「経験が浅いから」「新たな部署に異動してきたばかりだ

から」などと、得てして人は自分の力を過小評価しがちだ。「それは、仕事に方程式やパターンがあると考えているからです。自分はそれを知らないからできない、だから人に頼る。でも、ビジネス経験を少し積めば分かる通り、仕事に方程式などないので。ヒット商品の開発秘話などを見ても、それは明らか」。

CANに関しては小倉さんにも失敗の経験がある。「24歳の時、あるプロジェクトのリーダーを任されたのですが、周りが年上ばかりだったので、「自分の言うことなど聞いてもらえないだろう」と最初から弱気になっていたのです。ある日、それを見かねた先輩が「おまえは誰よりもこのプロジェクトを本気で考えている。だからおまえが正解を知っている。それを教えてやれよ」と、ハッパをかけた。それから年上や目上の人に対して堂々と意見を言えるようになりました。初めから白旗を

頼りグセを直す 3つの行動

1 MUSTを広げて 自分の役割を再確認

「自分の仕事はここまで」と勝手に線引きしているパターン。仕事に没入できず、腰が引けている。例えば、自分のやりたい企画は、上司と喧嘩してでも通すくらいの気持ちで仕事に挑むべき。これが本来あるべき部下＝自分の姿であることを再確認しよう。決めるのは自分。上司はハンコを押す人というくらいの気持ちで。



2 CANを広げて 自分の能力を認める

部署を異動した時によく、「自分は経験がないからできない」と思い込んでしまう人がいる。「仕事に方程式やパターンがある」と思いがちだが、そんなものはない。仕事は常に自分の頭の中で作り上げるものだと考えを改めよう。過去の経験が、異動先の部署に新たな風を吹き込み、思いもよらぬ結果を導き出すこともある。



3 WANTを広げて やりがいは自分で取りにいく

「やりがいを感じない」と言う人は、「世の中にやりがいのある仕事と、やりがいのない仕事がある」と勘違いしている。やりがいは仕事を成し遂げた後にわいてくるものだ。初めからやりがいを求めるのは言い訳に過ぎない。「やりがいは自分で取りに行く」。そんな気持ちで仕事に挑もう。



上げていてはダメなんです」。

WANTは意欲。意欲がわかないから自分でやろうとしないパターンだが、これは「世の中にやりがいのある仕事と、やりがいのない仕事がある」と勘違いしている人に起こる。「やりがいは仕事をやり遂げて初めてわいてくるものです。やる前から、「つまらない仕事」と決めつけるのは間違い。「やりがいは壁の向こうにある」と考えを改めることです」。



頼りグセ
改善ポイント!

決めるのは自分、 上司は「ハンコを押す 係」と考える

ビジネスパーソンはMUST、CAN、WANTが重なって初めて、主体的に仕事ができる。この3つのどれかを勘違いすると、頼りグセに陥る。まずは一番の原因であるMUSTをチェックしよう。